

令和2年5月  
第36号

# 曹洞宗中国管区 教化センターだより

竿頭の先に未来をひらく



《発行所》 曹洞宗中国管区教化(禅)センター

〒683-0802 米子市東福原1-1-22 ウエストビル402号室 TEL.0859-31-5161 FAX.0859-31-5163  
HP <http://kyouka-chugoku.com>

印刷 / 今井印刷株式会社  
TEL.0859-28-5551

# 令和二（二〇二〇）年度 布教教化に関する告諭

曹洞宗管長 福山 諦法

「人人悉く道器なり」

瑩山禪師のお言葉です。私たちは、元来、かけがえのない存在であり、それゆえに、一人ひとりが輝かしい人生を送ることが出来るのです。

その一方で、さまざまな社会の不均衡は多くのひずみを生み、私たちは苦悩を抱えながら生きています。また、頻発する災害がもたらす人びとのつらさや切なさを我が身に受け、悲しみを観じています。

誰一人として取り残されることのない世界を見据えて、いま、私たちの生き方が問われています。

ともに学びましょう。

己の益を先とする私たちの行いは多くの諍いを生んできました。本来の自己のありようは、他者との共生にあることを参究しましょう。その営みの中にこそ平和の実現があるのです。

ともに願いましょ。

私たちは、人やもの、自然環境に至るまで、数多のめぐみを受けて生きています。それらすべてと協調し、感謝の念を忘れず、世代を超えて安心して過ごせる世界の構築を願う菩薩の誓願に生きましょう。

ともに実践しましょう。

お釈迦さまは、智慧と慈悲を説かれました。あらゆる人に親切に接する慈悲の実践は、自ずと、心穏やかに暮らす智慧の心を育みます。それは、お互いがそれぞれを生かし合い、尊重し合う社会へとつながります。

道元禪師は、「ただまさに、やわらかなる容顔をもて、一切にむかうべし」と示されました。み仏の前に心静かに坐り、ご先祖さまに掌を合わせ、皆が幸せに過ごせる慈しみ溢れた世の中を目指して、ともに歩んでまいります。

合掌

南無釈迦牟尼仏  
南無高祖承陽大師道元禪師  
南無太祖常済大師瑩山禪師

## 令和二年度 布教教化方針

曹洞宗の布教教化は、一仏両祖の御教えを実践する中で、信仰の生活から生まれる深い喜びと安心を願い、その実現を目指すものです。私たちは今こそ「竿頭の先に未来をひらく」の言葉を胸に、未来を見据え、新たな一歩を踏み出さなければなりません。

そこで本年度の布教教化方針は、これまで推進してきた「禅の実践」「一仏両祖への帰依」「菩薩行の実践」に加え、現在国連が中心となり、全世界が取り組みを進める「SDGs」を推進することといたします。これは、誰一人として取り残されることのない、世代を超

えて安心して過ごせる世界の構築という告諭のお言葉に基づくもので、二〇一八年世界仏教徒会議においてもSDGsへの参画が採択されております。宗門においては長い間「人権・平和・環境」のローガンのもと、さまざま

な取り組みがなされてきました。これらは貧困や差別、環境や平和の問題を包括的に理解し、連携して取り組みというSDGsと、目標を同じくするものです。これまで布教教化方針として定めてきた、部落差別をはじめとするあらゆる差別の根絶、平和な社会の実現、地球環境への配慮、東日本大震災及び原発事故また多発する災害の被災地支援、自死問題への対応などへの取り組みを引き続き進めるとともに、世界中の人びとのために、次の命のために、身近な生活を振り返り自分が出来ることを考え、少しずつでも歩みを進めて参りましょう。

その基軸となる指針として、以下の項目を定めます。

一、禅の実践をすすめます。  
私たちは、寺院の内外を問わず、また坐禅会の開催に限らず、関わる行事や法要などのさまざまな機会において坐禅の実践をすすめます。またいす坐禅なども取り入れながら、より多くの方が坐禅に親しめるようつとめます。そして坐禅を中心とした「禅の生き方の実践」が、確かな人生の基軸となることを人びとに伝えひろめます。

二、一仏両祖を敬い、おとなえの普及につとめます。  
私たちは、日々「南無釈迦牟尼仏」

「南無高祖承陽大師道元禪師」「南無太祖常済大師瑩山禪師」とおとなえし、その御教えを受け継ぎ、自らの行いに生かしていくことの大切さを伝えていきます。

三、「修証義」「四大綱領」に基づく菩薩行の実践をすすめます。

私たちは、本宗の教義である『修証義』『四大綱領』に基づき、布施・愛語・利行・同事の四摂法に代表される菩薩行の実践をすすめます。そして、多くの人びとの幸せと安寧を願い行動することが、自身を菩薩として成長させる大切な修行になること、更には自分自身の深い喜びと安心につながることを伝えていきます。

四、寺院を活用し、地域社会に働きかけ、「縁を深める場」を創ります。

私たちは寺院を場とした教化活動にとどまらず、積極的に地域社会に働きかけることで、悲しみや苦悩を持つ方がたの存在に気づき、寄り添い、助け合える関係を築けるようつとめます。僧侶それぞれが主体的に考え、地域の人びとと共に取り組む活動を通じて、人と人との温かな関係づくりを力尽くして参ります。

※SDGs (Sustainable Development Goals) は「持続可能な開発目標」と訳され、二〇一五年の国連サミットで加盟一九三カ国の全会一致で採択された「貧困や飢餓の解消」「平和的社会的実現」などに関連する十七の課題を、統合的・包括的に解決していくこうとする国際目標です。

# 統監挨拶

護国山国分寺 住職 長尾 武士



本年は昨年から年号が変わり、令和二年となりました。

年号は紀元前一四〇年に中国の前漢の武帝が即位の翌年を建元元年としたのが始まりであるといわれ、中国文化の伝播とともに朝鮮、満州、日本、ベトナムなどでも年号が立てられました。東アジアの諸王朝が滅びるとともに、中国も含め年号の使用もすたれ、現在は日本のみが用いているようです。

日本では六四五年の「大化」が最初の年号で、近代の年号は、中国の古典書、易経から「明治」と「大正」に、書経から「昭和」に、また史記の「内平」にして外成る「から」「平成」になりました。以上の通り近代の年号を見ても中国の古典書からの引用であることが解りますように、年号を含め日本の文化とは、中国文化の

伝播の賜物でした。

しかし、初めの日本の古典書・万葉集の、初春の令月にして 気淑く 風和ぎ 梅は鏡前の粉を披き 蘭は 珮後の香を薫らす という和歌より引用されて「令和」となりました。これは、いよいよ中国四千年の歴史と文化を脱却して、日本の国文学から年号を用い、日本で育んだ文化でも十分に通用する時代にするのだとのメッセージではないでしょうか。

さて、年号のように、殆どの東洋の文化は中国より伝播してきましたが、本年になってからあまり伝わって欲しくない、「新型コロナウイルス」が中国で発生して、全世界に拡がり、日本にも入って来てしまいました。

最近では、グローバル社会という言葉がよく使われます。グローバルの意味は広辞苑では「世界全体にわたるさま。世界的な。地球規模の。」とあります。

正にこの「新型コロナウイルス」はグローバル社会での現れに違いありません。あつと言う間に世界各地に感染拡大し、多くの人命が失われ、数知れぬ人々が病床に伏しておられ

ます。これまでにお亡くなりになられた方のご冥福をお祈り致しますと共に感染者の皆様の一日も早い完治と、只々この状況が終息することを願うばかりです。

この様な状況の中で、人々の生活から様々な助け合いの気持ちが高まり、感染に対する意識と対応が高まればいいのですが、なかなかそうはいかず、米欧諸国などでは、東洋人に対しての偏見と差別から、国から出て行けと殴られたり、病院で介護に従事している方に感染するから近づくなと言ったり、電車の中で咳をすると車両から出ていけと言われたり、「人権」が危ぶまれています。

また、新型コロナウイルスの発生は中国人が発生源ではなく、アメリカ人が中国に持ち込んだという、中傷し合う大国の争いが「平和」を危うくし、感染拡大を制御する為に、学校や会社への通学・通勤も最低限にし、テレワークなどが推奨され、なるべく人との接触を少なくする政策が施行され、そのために自宅での待機や、不安が家庭内暴力を発生する要因になり「環境」を少しずつ壊していつております。

この様な時こそ、世界共通の課題でもあり、宗門の掲げるスローガンの「人権・平和・環境」を考えるべきではないでしょうか。

「平和」は、多くの犠牲とたゆまない努力よって築かれたものであることを忘れずに、よく話し合ってもらうように働きかけること。「環境」は、このような感染症にあった時に、助け合いの気持ちを強くし、予防の意識を高め、しっかりと対応し、「人権」は感染症が発生した時に正しく対応し、相手の気持ちになって行動する。以上のように、たゆまない努力を皆様とご一緒に進めて行ければと思います。

当管区センターでは、賛事の一人が三月末日に定年になり、新しい賛事を迎えました。新型コロナウイルスの為に予定していた、教化指導員研修会などの中国管区教化センター主催事業も中止や延期になっており、ご迷惑をおかけしておりますが、今年度も新しい賛事とともに、教化センターの役員一同に、ご支援、ご指導をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

# 管区長挨拶

岡山県宗務所所長

酒井 晃道



爽やかな季節を迎え、管区内諸老師におかれましては、益々ご健勝にて教化にご精励の事と拝察申し上げます。

新型コロナウイルスの感染が世界中で拡大しています。これに伴い各種イベントが中止になり、自粛を要請されることが多くなってきています。感染者が出ていない県や地域でも例外ではなく、国民が感染予防に向けて一丸となって取り組まなくてはならない状態です。この「教化センターだより」が、発行される頃には、収束に向かっていくことを、切に願うばかりです。

「豪華客船から帰宅した人が何人いる。」とか「人が、多く集まる時間帯には、買い物は行かない。」等、最近このような会話を耳にすることが多くなってきました。

不安から自己防衛的に発せられる言葉だと思いますが、その人たちを、保菌者のように扱う言動には、抵抗を感じます。

昭和六十年頃の「エイズパニック」を思い出します。当時感染者が出た県の車を見かけると大騒ぎをしました。この時は、感染者の実名報道もあり、その方の交友関係までマスコミは調べました。また、公衆浴場の外国人拒否が全国的に起こりました。当時は、エイズに対する知識が私たちには乏しいものでした。その為、感染力が弱いにもかかわらず、必要以上に恐れ、そして差別を拡大していきました。

このような事態は、現状と酷似し

ています。今の方が、情報や、誤った考え方の拡散が遥かに速く、差別の蔓延が瞬く間に起こってしまいました。

正しい知識がなく、または意図的に知らされず、誤った対応をした経験は、私たちには過去に何度もあります。「ハンセン病」もその一つです。

国は、療養所へ患者を長年隔離し、完治してもそこから出所させることはありませんでした。強制労働、強制断種・墮胎等々、入所者の人権を著しく奪った歴史があります。

国民も、「無ライ県運動」と称して、ハンセン病患者を村から排除していきました。

宗教者もハンセン病を「悪行の報いによる『業病』」、「天の裁きによる『天刑病』」と説明をし、加担してきたのも事実です。

現代の、流言飛語に惑わされたり、

差別が広がったりする風潮に、いまこそ宗教者は、警鐘を鳴らさなければならぬと思います。

その為にも、法話、寺報、日常の会話等、あらゆる機会を使って、過去の過ちを繰り返さない努力をしたいものです。

行事の中止や、延期等、自粛ムードの中にあつて、国民の不安と閉塞感が増しています。僧侶や寺族の言動が、地域の人の安らぎになることを切に望むものです。



# 令和元年度 事業報告

|    |       |                                       |   |
|----|-------|---------------------------------------|---|
| 4  | 9～10  | 教化センター前期連絡協議会                         | 宗務庁   |
| 4  | 17    | 教化活動推進委員会                             | 米子市国際ファミリープラザ 平成30年度事業報告 令和元年度事業計画  |
| 5  | 8     | センター布教師協議会                            | 広島市アークホテル 令和元年度教化方針、ラジオ放送、文化講座について  |
| 5  | 上旬    | センター報第35号発刊                           | 中国管区内ご寺院(約1,000ヶ寺)に郵送(兼務地で不在の場合は未発送)  |
| 6  | 6     | 婦人会中国管区役員会                            | 松江市島根県第2宗務所 各宗務所婦人会代表(各会長など)<br>10月の研修会(於:島根県松江市ホテル玉泉)での配役分担について  |
| 6  | 11～12 | 教化指導員研修会                              | 岡山市 リーセントカルチャーホテル<br>講師 ◎宮城県普門寺副住職 高橋悦堂師<br>講義Ⅰ『臨床宗教師を考える』講義Ⅱ『死生感を育む』<br>◎岡山県宗務所人権擁護推進主事 樋口三城老師<br>人権学習『障がい者差別について』<br>◎岡山県警サイバー犯罪対策課<br>講義Ⅲ『サイバー犯罪体験型コンテンツによるセミナー』<br>受講者45名 |
| 6  | 19    | 教化資料等企画制作委員会                          | 広島市アークホテル ラジオ原稿の点検・校正   |
| 7  | 10～11 | 管区役職員人権啓発研修会<br>人権啓発に関する協議会<br>(管区事業) | 岡山市 岡山プラザホテル<br>◎長島愛生園現地見学<br>◎講演『ハンセン病について』<br>日本キリスト教団東中国教区常置委員 難波幸矢氏<br>本庁、センター、管区長、各宗務所の役職員   |
| 7  | 24～26 | 子ども禅インサマーセミナー                         | 募集人数に達せず開催中止  |
| 9  | 4～5   | センター布教協議会・講習会                         | 山口市 湯田温泉 ホテルかめ福<br>講師 ◎曹洞宗特派布教師 富山県林洞寺住職 倉田豊彰老師<br>講義Ⅰ、Ⅱ『法話は愛語』<br>◎山口県宗務所 副所長 山縣洋典老師<br>人権学習『社会的観点から鑑みる自己人権意識の再点検』<br>受講者83名   |
| 9  | 18    | 教化資料等企画制作委員会                          | 広島市アークホテル ラジオ原稿の点検・校正   |
| 10 | 8     | 教化センター後期連絡協議会                         | 宗務庁(主監会)  |
| 10 | 10    | 教化活動推進委員会                             | 広島市ヒロデン 令和元年度前期報告 令和2年度計画   |
| 10 | 23～24 | 婦人会中国管区研修会<br>(婦人会事業)                 | 松江市 玉造温泉 ホテル玉泉<br>講師 ◎兵庫県安泰寺住職 ネルケ無方老師<br>講演『はるばる日本へー青い目がみたZENー』<br>◎佐賀県弥福寺住職 宮島俊京老師<br>講演『私が僧侶になった訳ー女性住職としての歩みー』<br>(※参加者約200名)  |
| 11 | 7     | 管区護持会集会(管区事業)                         | 岡山市 プラザホテル<br>講演 ◎日本臨床宗教師会副会長<br>宮城県通大寺住職 金田諦應老師<br>『～東日本大震災～生と死の狭間を歩く』   |
| 11 | 29    | 禅をきく会                                 | 大田市 島根県立男女共同参画センター「あすてらす」<br>講師 ◎愛知専門尼僧堂堂長 青山俊董老師<br>『たった一度の人生をどう生きるかー勅題「光」によせてー』<br>(※参加者約320名)  |
| 12 | 11    | 教化資料等企画制作委員会                          | 広島市アークホテル ラジオ原稿の点検・校正   |
| 2  | 6     | 布教委員長会議(管区事業)                         | 岡山プラザホテル  |
| 2  | 19    | 教化活動企画委員会                             | 布教教化活動について  |

## 毎週のラジオ放送〔広島市 RCCラジオ中国放送制作〕

毎週土曜・日曜日、朝5時台～6時台のAMラジオ放送『今日のこころ 私のこころ』→5分間枠中国5県計4局で放送中。  
※放送に際し、企画制作委員会を年3回、ラジオ収録を毎月1回実施

- 文化講座**
- ◎米子市講座 (NHK文化講座)「やさしい写経入門」毎月2回開催(4月～12月)
  - ◎米子市講座( )「坐禅に学ぶ」毎月1回開催(4月～12月)
  - ◎米子市講座( )「精進料理に親しむ」毎月1回開催(10月～2月)
  - ◎松江市講座(山陰中央新報社文化センター講座)「心安らぐ写経入門」毎月1回開催(全8回)

## 岡山県宗務所だより

### 令和元年度事業報告

教化主事 中山 尚三

#### 《檀信徒地方研修会》

東日本大震災復興支援室分室主事の福島県龍徳寺住職久間泰弘老師をお迎えし、「被災地の現状と福島の子供たち」と題し講演を賜りました。福島の子供たちは心の奥に大きな葛藤を抱きながらも力強く日常を送っている様子をお話していただきました。

#### 《現職研修会》

大阪大学大学院教授で宗教社会学博士の稲場圭信先生をお招きして講演をいただきました。東日本大震災で被災された方々が、寺院など宗教施設を避難所とした経緯や、現在に至るまで学生と共に活動された内容をお話下されました。

お寺は地域コミュニティに根付いており、災害時には、積極的に開放していただきたい、追悼の面でも被災者の心のケアも可能であると訴えられました。

#### 《第三十一回親子参拝》

第七教区大椿寺様を会場に「ZEN ちゃれん寺」を開催しました。当日は子どもたちが四十七名、保護者七名のご参加をいただき、坐禅や写経、うどん打ち体験を行い、中食には打ち立てのうどんを食しました。

#### 《寺族会》

寺族会研修会は、高梁市教育委員会参与の田村啓介先生を講師にお願ひし、「郷土の文化財―その魅力と課題」という演題でお話しいただきました。知っているようで知らない文化財の奥の深さ、郷土の歴史の門をたたかせていただきました。

#### 《婦人会》

真言宗御室派本山布教師の岡山備中支所・神遊山遍照院住職大原英揮僧正に「大切なもの」と題しての講演をいただきました。バイオリンの演奏を交えながら、日頃から感謝の気持ちを常に心に留め仏教徒として育んでいただきたいとお話でした。

#### 《梅花流岡山県奉詠大会》

高梁市文化交流館にて第五十三回奉詠大会が参加二十三講百六十名余りの講員により盛大な会が催されました。島根県大田市明元寺住職森山祐光一級師範による講習をいただき、長年の経験を生かし解りやすく楽しいご講演でした。

## 広島県宗務所だより

### 昨年度活動より

教化主事 吉津 賢秀

広島県宗務所は、限られた予算とスタッフに依り教化活動に取り組んでおります。教区長老師をはじめ各寺院御住職、宗侶の方や寺族の皆様の絶大なご協力、ご支援により円滑に実施できている状況です。

その一端として、毎年秋に会場を各教区持ち回り五百名前後の参加を得て檀信徒地方研修会を開催しております。

この度は十月に高野山本山布教師の家田莊子氏を講師に迎え「この世に生まれ、生きて、生かされて」と題しての講演を拝聴、人権学習では、広島市普門寺副住職吉村昇洋師が「こころの病について」と公認心理師としての実践からユーモアを交えてお話しくださいました。

また、十一月には本山研修を行い、大本山總持寺様に百名が参拝し、役寮様方からの講話と夜坐、そして荘厳な朝課焼香にと感激も一入の様子でした。第五十二回となる梅花流広島県奉詠大会も師範会並びに開催教区のご助力により、三百五十名の参加のもと、講員各々日頃の練習成果を発表することが出来たと思えます。二月には宗務所検定も実施。全国奉詠大会にも多くの参加がございしますが、課題として参加者の固定化、各講の講員の減少があります。

寺族会活動は、役員の方を中心に人権を基底とした研修会が開催されています。秋季研修会では、第二次世界大戦時に国家機密である毒ガス工場があった大久野島にてフィールドワークを取り入れて、製造された毒ガスが戦後に大量投棄されていることや、従事した方達が今なお後遺症により苦しんでおられる状況等を学習し、環境問題と平和の大切さを再認識しました。

その他として、ご承知の通り近年温暖化により急激な環境変化が生じ、多くの大規模自然災害が発生しています。被災所においての独自に災害見舞金制度を設けて、被災された寺院への見舞金支給、被災地へのボランティア活動に参加された宗侶への交通費助成を行うこととしました。

## 山口県宗務所だより

### 宗務所管内の実状報告

副所長 山縣 洋典

先ずは、常日頃より、本県に物心両面からのご指導とご鞭撻を賜る中国管区教化センター統監老師と職員の方々に対し厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、今回本県宗務所は荒木所長以下、前任メンバーが全員留任となり、二期目の行政に携わらせていただいております。その所員一同が常に心掛けているのは、前期と変わらない正確且つ迅速な情報収集と、それに伴う個々に寄り添う的確な対応実践行動です。

その為には、携帯電話のアプリ等も活用し、複数のグループラインを設けて、タイトではなく出来るだけワイドでマクロな情報収集と発信に尽力している次第です。

ところでこうした実状報告から鑑みますと今日他県も同様かと思いますが、本県内寺院住職と関係者も急激な過疎化とそれと共に生じる様々な弊害に悩まされていることが如実に表れています。

特に県内山間部は深刻な実状がみられ、対応に苦慮していることが多数報告されています。こうした少子化や就業場所や就労条件等に関する社会現象は、一宗務所として如何ともし難いことは言うまでもありません。しかし、収集した情報をもとに青年会、寺族会、婦人会また護持会などの協力を仰ぎながら、所員一丸となって粉骨碎身の努力を執り行っております。

このような実状を踏まえますと、今後もセンターと他県宗務所の方々にはご迷惑等お掛けする事多々有るやと存じますが、どうか変わらぬご協力の程、宜しくお願い致します。

## 鳥取県宗務所だより

### 鳥取県宗務所行事の概要

教化主事 川崎 康弘

宗務所引継から一年が経ちましたが、借上げ事務所での執務は県下ご寺院のご協力により概ね円滑に行っております。

昨年は例年同様本山研修会、特派布教・布教講習会、現職・寺族・徒弟研修会、人権学習会、檀信徒地方研修会、梅花流特派講習会、梅花流奉詠大会等を実施しました。特に現職研修会では講師に野村證券の宗教法人担当コンサルタントを招き「檀信徒の実情を知る」と題し、地方や世代間が抱える問題が寺院経営に及ぼす影響について問題提起して頂きました。また宗門が推進する「食」の問題について寺族研修会では「SDGs」に代表されます食品ロスをテーマに、檀信徒地方研修会では精進料理の極意についてそれぞれ講演頂きました。いずれも宗侶の身の周りで起こっている現実問題に如何に取り組むべきかを示唆頂ける内容でした。

また昨年度管区人権啓発研修会（岡山県）で学習させて頂いたハンセン病差別問題について、さらに多くの方知って頂くため寺族研修会において地元在住の元看護師の方から差別撤廃に取り組む貴重なお話を頂きました。

今年も「これからの寺院経営に何が必要か」との問題意識を持ち、住職さんのニーズに耳を傾けながら宗務所として出来ることを考えて参りたいと思います。

## 島根県第一宗務所だより

### 宗務所活動の概略

庶務主事 堅田 俊彦

昨年度は宗務所長をはじめ役員が一新されてスタートし、前年までの事業を引き継いだ事業を展開した一年でした。

昨今、当宗務所管内は過疎化が加速する中で、檀信徒への教化事業の動員人数が減少傾向にありましたが、十一月開催の教化センター主催「禅をきく会」では予想を上回る動員がなされたことは新たな発見でした。

青山俊董老師をお迎えし「たった一度の人生をどう生きるか」をテーマにご講演いただきました。二八〇名の動員を目指していましたが、三二〇名あまりの動員を得ることができました。檀信徒から求められる事業及びその動員方法に関し新たな光明が得られたと思います。

令和二年度からは級階査定による宗費の改正に伴い、宗務所運営費の大幅な減額が見込まれます。宗務所事業にかかる予算も削減せざるを得ない状況になります。予算削減による事業縮小もあり得ますが、今までの事業を引き継ぎつつ、より効率的に事業を構築していく必要があります。

変えなければならぬ事、変えてはいけない事を整理し、役員をはじめ、各方面から智慧を出し合いながら事業を進めてまいります。

小規模宗務所であることのデメリットは多々ありますが、逆に小規模だからこそ出来る事を考えて事業を展開してまいります。

## 島根県第二宗務所だより

### 宗務所行事の概略

教化主事 板倉 省吾

六月二十五日から二十七日にかけて、檀信徒本山研修参拝旅行が行われ、およそ百二十名が参加されました。本山研修会を大本山永平寺で開催。その後は大本山總持寺祖院、永光寺などを参拝しました。

九月一日から二日にかけて、現職研修会を松江しんじ湖温泉「夕景湖畔 すいてんかく」で開催。民俗学者の畑中章宏氏から「災害・怪異・観音」と題して、出雲市・真宗寺（浄土真宗本願寺派）住職 堀西雅亮師からは「一人一人が安心して生きることのできる社会へ」と題して、それぞれご講義を賜りました。

十月二十三日から二十四日にかけて、曹洞宗婦人会中国管区研修会が、松江市玉造温泉「ホテル玉泉」にて開催されました。兵庫県・安泰寺住職、ネルケ無方師から「はるばるニッポンへ」青い目がみたZEN」と題して、佐賀県・弥福寺住職、宮島俊京師から「私が僧侶になった訳」女性住職としての歩み」と題して、東方学院松江校講師の瀬古康雄氏から「シタールの弾き語り」仏教の伝来とインド音楽」と題して、それぞれご講演を頂きました。

十一月十四日には梅花流地方奉詠大会を、出雲市市民会館で開催。平田市・常光寺講が地元の河下甚句踊り保存会の有志と共に合同登壇され、大会を盛り上げられました。

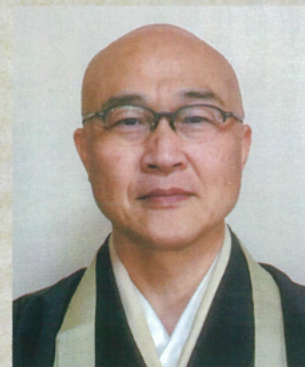
十一月二十三日には檀信徒地方研修会が、安来市総合文化ホール「アルテピア」で開催されました。今回は「終活フェア」として納棺体験や仏事相談のほか、歌手の嘉門タツオさんのコンサートが開催されました。

さて、令和元年度から当宗務所は全寺院を対象に、宗務所婦人会の会費を一律賦課することを決定しました。任意団体ではありませんが、年々縮小の傾向にある曹洞宗婦人会の活動を宗務所全体で支えるための措置となります。

# 紙上法話

## 「自分らしく生きる前に」

島根県 訂心寺住職 木村芳典



いつの頃からでしょうか、色んなメディアを通して「自分らしく生きよう」という言葉をよく耳にし、また目にする様になりました。そこには「これからは自分に正直に、ありのままに生きる。そんな自分らしい生き方をしよう」と世間に勧めようとしている意図も感じられます。その勧めに人々も共感し始め、近頃ではそういう生き方が流行にさえなっている観もあります。

それは良いのですが、しかしその「自分らしく生きる」を例えば「周りを気にしないで、自分の思うまま、自由にやってもいいんだ」と解釈して振る舞うと、その人は単なる身勝手な人・無礼な人・反抗的な人にしか映りませんし、そういう人が増えるのは困りものです。

そうではなく、そこには必ず「社会のルールや節度を弁え、相手を尊重し、周りに配慮して」という前提があるはずで、それを守った上でその人らしさを発揮し、活き活きと人生を送られる人が増えるのならば賛成です。

さてそれでは、これからの私達はそういうふう「自分らしく」生きて行かれたらそれで良いのでしょうか……。

昨今、世の中では耳を疑い、胸が痛くなる様な事件が毎日何処かで、そして当り前の様に起きています。それは溢れる程の真偽も定かでない情報に振り回され、惑わされた挙げ句、善悪の判断が付け

られなくなった人間の所行と言ってもいいのかもしれませんが。

しかしそれは決して他人事ではありません。そうやって知らず知らずの内に善悪の判断を少しずつ鈍らされてしまい、人としての正しい道から外れかけている事に誰も気付いていないかもしれないのです。

芸術家の故岡本太郎氏は生前、

「自分らしくある必要はない。むしろ 人間らしく生きる道を考えてほしい」

という言葉を残されています。

どこか殺伐としてきた世の中で、自分らしく生きるのも確かに結構ですが、でもその前に私達が本当に目指すべき大切な生き方は、氏が言わんとされている様に『人間らしく生きる道』を考え、その道を歩むよう心掛ける、そういう生き方なのではないでしょうか。

では、その人間らしく生きる道とはどんな道なのか？ どんな生き方なのか……？ 時代は変わっても決して変えてはいけない、人としての正しい道・生き方を、釈尊が、両祖が、そして多くの仏祖方が時を超えて常に私達に説き続け、示し続けて下さっています。その尊い説示にしっかりと耳を傾け、「人間らしく」生きる道を学び、身を以てそれに努めていく所にこれからの私達が目指すべき本当の生き方があると思います。



# 教化指導員研修会



令和元年六月十一日〜十二日  
於 岡山市・リーセントカルチャーホテル  
岡山県 宗務所教化主事 中山 尚三

## 研修会に参加して



高橋悦堂 老師

本年度の中国管区教化指導員研修会は、中国管内から四十五名程の指導員が集まり開催されました。

臨床宗教師で宮城県普門寺副住職高橋悦堂老師を主任講師にお招きし二講座『臨床宗教師を考える』と『生死、感を育む』と題し講義を賜りました。臨床宗教師とはどういった活動をするのか、なぜこの道に進まれたか、高橋老師が師と仰ぐ今は亡き医師の方などの様な指導を受けたのか、そういったお話をいただきま

した。

余命を宣告された方々に僧侶である我々が行うべき活動でありながらも、法衣はまとわず布教や勧誘や宗教儀礼は一切行わず、相手の思い、考え、価値観を第一とし緩和医療において霊的（内面的）苦痛をスピリチュアルケアする事が臨床宗教師としての大切な指針である事を学びました。老師は講義の最後に、人はこの世で生きて悩んでそして死を迎え、自然の中に帰って行く、そこに良し悪しはないのだからと説かれ、寺院や教会などの宗教施設の外で苦悩されている方がいる限り、その方々に少しでも心の安心を得て貰うため臨



樋口三城 老師

床宗教師の大切さを説かれました。

人権学習は岡山県宗務所人権擁護推進主事の樋口三城老師が宗門の人権の歩みと、今年の人権課題となっている、これからの寺院に必要なバリアフリー化に向けての考えやアイデア画像を交えながら解りやすくお話しいただきました。

その他に岡山県警サイバー対策課の佐川祐二課長にお越しいただき、ネット社会に潜む隠れた犯罪やスマートフォンなどの便利さの裏にはびこる恐ろしい手口を、実際に会場で実演していただきました。参加者の多くは自分は大丈夫だとの考えを改めさせられました。



佐川祐二 課長



# センター布教協議会・講習会



令和元年九月四日～五日  
於 山口市・湯田温泉ホテルかめ福

山口県 華嚴寺住職 磯部 誠司

## 布教協議会・講習会 に参加して

令和元年九月四日、五日にセンター布教協議会・講習会が開催されました。

まず、曹洞宗特派布教師富山県林洞寺住職倉田豊彰老師による講義を頂きました。

「法話は愛語」というテーマのもと、現在の曹洞宗寺院の住職と檀信徒との関係性について述べられました。檀信徒の多くは我々が思っている以上に、菩提寺住職の法話を求め



倉田豊彰老師

ているのにも関わらず、法事等の場面では、読経のみで、法話も茶飲み話も無いということが結構多いそうなのです。宗侶の多くは一定期間僧堂に安居し、厳しい指導のもと、坐禅をはじめ様々な修行を経験していて、そのことが、曹洞宗寺院や宗侶に対して、檀信徒の皆様が帰依して頂ける大きな要素になっているのではないのでしょうか。私も一年間の安居でしたが、それから二十年以上経った今でも檀信徒の方から安居中の話を聞かれます。しかし安居して自坊に戻り数年経つと、初心を忘れて、仏教や禅の教えを追求し、檀信徒や世間に向き合うことよりも、ただ檀務をこなすことが主体になってしまふ恐れが多々あります。何の為に宗侶になったかをよく考え、あらゆる機会でも布教教化を怠ってはならないと感じました。老師は、他者を我が身にひきあてて、人々の苦悩や抱えている問題を受け止め、安心を与え

られるよう自らが努力を重ねなければならぬと言われました。

次に法話の作り方や仕方について具体的に述べられました。「法話はドラマ」であるということで、面白いテレビドラマは脚本が良い。それと同じで、法話も脚本即ち原稿が大切であり、良い法話になるかは原稿作りにかかっていると。そして、原稿が完成したら繰り返し練習し、原稿を自分のものとし、出来れば録音して自分の耳でも聞いて、至らぬ点反省すべき点をよくチェックすべきであるとされました。

私も、法事や通夜の機会に出来るだけ法話をし、掲示板伝道、寺報の作成を通じて自分なりに布教教化につとめているつもりでしたが、布教に向かう際の日々の心構えや姿勢、また原稿作りの大切さ等、教わることの多い興味深い講義でした。

続いて曹洞宗山口県宗務所副所長山縣洋典老師による人権学習の講義



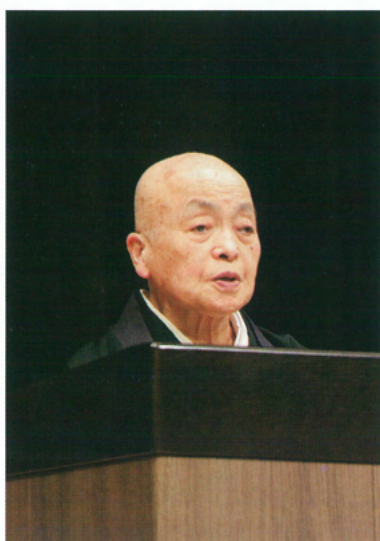
山縣洋典老師

を頂きました。差別語と、差別を助長する可能性があるので自主規制する語について、様々な例文を用いて解説されました。まず、他者を差別する心を減らすこと。そして、法話の際には、思いつきで言葉を発するのではなく、倉田老師の言われた様に、原稿をしっかりと作り、その中で先のような言葉が入っていないかよく確認することが大事だと思いました。この度の布教講習会の講義を通して、言葉の重み、大切さ、そして素晴らしさを大いに感じた二日間でした。

# 禅をきく会

講師

青山俊董 老師



センター主催

令和元年十一月二十九日  
於・大田市  
島根県立男女共同参画センター  
「あすてらす」

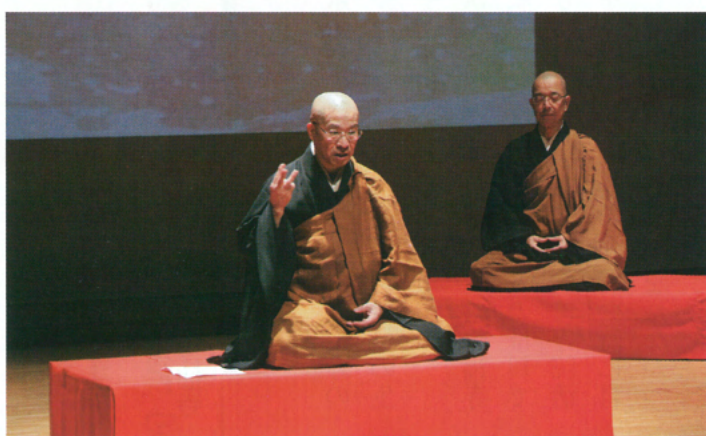
●島根県第一宗務所  
教化主事 末 豊源

令和元年度中国管区教化センター主催の禅をきく会は、十一月二十九日に大田市島根県立男女共同参画センター「あすてらす」にて開催されました。今回は新しい試みで、一・三教区が主体でした。第一教区百五十名・第三教区五十名。檀信徒地方研修会を併設して、第四・第五・第六教区で各十名と思い企画しました。少子高齢化、過疎化で、寺の法要自体お参りが少なく本当に禅をきく会に来てくれるかどうか心配でした。ところが、二百九十席が満席になり、モニター室に案内し、三百部の資料も足らなくなり、うれしい悲鳴を上げました。中国管区教化センター長尾武士統監の開会挨拶、イス坐禅を出席者全員で行いました。この会の講師は愛知専門尼僧堂堂長青山俊董老師でした。「たった一度の人生をどう生きるか」勅題「光」によせて」という演題でご講演いただきました。老師はお話の中で人生を「闇から光へ」と転じられた、あるタクシー運転手さんのお話をされました。その方は高校三

年生の時、ご両親を食したフグの毒が原因で一緒に亡くされたそうです。両親亡きあと残された年の離れた五歳の妹と共に本気になって生きていかなければならなくなり、そのことが自分を一人前にさせてくれたというのです。ご両親の死という闇から光へとプラスに切り替えられたこのお話が印象に残りました。また、ある時、臘八撰心の最中に死刑囚の方からお手紙が届き、そこには「あとわずかのいのち、もし私に返事を下さる気持ちがあるならば、速達でくれ」とありました。まず「置かれてい

る場所はどこでもよい。そこでどう生きるか。」二つ目は、「人生の目的は長生きすることではない。よく生きることだ。」そして、三つ目は、「よく生きるとは、『今はよくないと』と気づかせていただくこと。」と返事を書かれたことを話されました。そして平成三十一年三月に、軽い脳梗塞・心筋梗塞を患い病気から色々学ぶことが多いという話をしてくれました。

最後に島根県第一宗務所所長山崎禅雄がお礼の挨拶をして、今年



# 曹洞宗婦人会中国管区研修会



令和元年十月二十三日～二十四日  
於 松江市・玉造温泉ホテル玉泉  
島根第二宗務所「みくも」  
第一教区 仲仙寺 檀信徒

奈良井 糸栄

## 精進と精魂をこめて

新元号「令和」という新たな時代の幕明けに世の中は望み新たな始まりにある中、関東地方を台風十九号襲来、一夜にして激流化、そんな連日の報道の中、令和元年度中国管区研修会開催日を迎えました。

「玉造温泉ホテル玉泉」に於いて、会員数二百余名の参加の中、逸早く長野県から会場に駆けつけて下さいました本部婦人会高野会長さんは「自分の寺は大丈夫でしたが一面の水浸しです。」と大変な状況の中、ご



ネルケ無方老師



宮島俊京老師

出席頂き心から感謝申し上げます。会長挨拶では「現在高齢化と共に会員数の減少が全国的な問題となっています。今皆さんの力を必要とします。」と話されました。次いで長尾武士老師の坐禅指導では「各家のご仏壇の前に線香を一本まっすぐに立てて静かに坐ってみてください。ご先祖様は私達と共におられます。」と教えのお言葉に会員一同心静かな時を頂きました。講演では兵庫県安泰寺住職、ネルケ無方老師の「はるばるニッポンへー青い目が見た『ZEN』」という演題で講演頂きました。禅僧を目指し来日、八年間の

雲水生活の後、縁のあった安泰寺の堂頭となり檀家ゼロ、自給自足の生活をされ頑張っておられます。

次いで講演頂いた佐賀県弥福寺住職、宮島俊京老師は四児の母親であり女性住職として精力的に寺院活動をされておられます。「若い時に目指していた学校教師にはなれなかったが仏教の先生になろうと思い、それも家族が居るから頑張れる。」と締められました。

最後に東方学院松江校講師、瀬古康雄先生にはシタールの弾き語り、仏教の伝来とインド音楽についてお



瀬古康雄先生

話を頂きました。「インドの英雄達は別れの時輝いてあの世に行く……」心にとどく独特の音の響きでした。

この様にして立場環境の異なる各講師方の話に耳を傾けると、新聞の一面に「精進と精魂こめてひたすら進む、つねに流れる水は柔らかであつてもいつか石の表面に穴をあける。精進にはそれ程の力がある」と読んだことが甦りました。

この度の研修会に際し、管区教化センターの皆様、各関係の皆様方のご尽力で素晴らしい時を頂きました事に御礼申し上げます。

また、皆様からのキャラ募金、総計十一万八千五百六十一円は本部を通し被災地へ送られるとの報告がありました。どうか一日も早い復興をお祈り致しまして御礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございます。

# 管区事業報告

曹洞宗・中国管区・人権擁護推進本部共催

## 管区内宗務所・教化センター 役員等 人権啓発研修会

令和元年七月十日、十一日の両日岡山市の岡山プラザホテルを会場に中国管区内人権啓発研修会を開催しました。岡山県には国立ハサンセン病療養所が二か所あることを機縁に今尚差別が続くハサンセン病について学びました。

初日は現地研修として国立療養所長島愛生園を訪問し歴史館にてビデオ視聴、学芸員田村朋久氏の案内で館内見学と収容機橋等歴史回廊見学した後、入所者自治会長の中尾伸治氏から入所者語り部としての体験談をお話頂きました。入所当時の劣悪な生活や差別的扱いと世間の偏見、国の政策が助長した差別が現在においても入所者を苦しませていることを痛感しました。

二日目は日本キリスト教団の難波幸矢氏から差別の歴史的背景や現実に起きた差別事象を詳しく講演頂きました。新聞やテレビで差別解消の取り組みの報道がされた中で、当事者しか知り得ない報道されなかった事実等を語られ未だ

差別解消の道半ばであることを聴講者一同思い知らされました。グループ討議においては宗教者も過去の過ちを反省しこの学びを人に伝えこれからも関心を持ち続けることが大切とのご意見が多く寄せられました。

研修会当日、ハサンセン病家族訴訟に関して政府の控訴断念が確定し、ハサンセン病の家族に対する取り組みが始まることになりました。また当園の歴史と教訓を後世に残すため、世界遺産登録を目指して活動中とのこと、悲願の成就をお祈り致します。

研修会当日、ハサンセン病家族訴訟に関して政府の控訴断念が確定し、ハサンセン病の家族に対する取り組みが始まることになりました。また当園の歴史と教訓を後世に残すため、世界遺産登録を目指して活動中とのこと、悲願の成就をお祈り致します。



## 管区集会を終えて

中国管区檀信徒代表理事 深井 正

十一月七日、中国地区六宗務所が持ち回りで隔年に開く管区集会が十二年ぶりに岡山で開催され、一五〇人を超す参加があり成功裏に終わることが出来ました。

県宗務所・県護持会関係各位のご尽力に感謝申し上げます。

柴田宗門護持会長の挨拶に始まり宗務所各部長から宗務報告があり、その中で、今春の曹洞宗総合研究センター中間報告を受けて宗務所伝道部に「過疎地域等における宗門寺院の問題に関する対策準備室」を設置したこと、宗門の重要課題として現場寺院等と連携し施策の考査を深化させたい旨の報告がありました。

過疎地寺院の護持対策について、わずかな胎動を感じる事が出来たという印象でしたが、今後の動向と展開に期待したいと思います。

続いて研修にうつり、宮城県大通寺金田諦應老師（臨床宗教師）の「〜東日本大震災〜生と死の狭間を歩く」と題し、「苦悩や悲嘆を抱える人々に寄り添う」ということは？という内容の講話を拝聴しました。

寄り添うということは、傾聴と受容がベースにならなければ実現できないと話されたことが強く印象に残りました。

曹洞宗中国管区主催

## 中国管区布教委員長・役員会議

令和二年二月六日、岡山市「岡山プラザホテル」におきまして管内宗務所長、宗議会議員、教化センター役員、教化主事の方々にご参集いただき開催されました。

開講諷経、宗歌斉唱後、酒井晃道管区長、長尾武士統監にご挨拶いただき議事に移り、令和元年度の管区行事、決算、監査報告がなされ、引き続き令和二年度の行事案、予算案が承認されました。

続いて昨年から懸案であった「曹洞宗中国管区災害見舞金規程」の制定について話し合いました。条文をめぐっては、長時間に亘り参加者の白熱した討議が行われ、令和二年二月六日付で規程が施行されました。

これにより、もし中国管区内において激甚災害が起こってしまった場合には、被災した曹洞宗寺院の宗務所に対し二十万円を上限に中国管区から見舞金を支出する事に決まりました。



## 令和2年ラジオ法話「今日のこころ 私のこころ」放送予定日

| 回数  | 放送日       | 県名     | 寺院名  | 担当者  | 役職等     |
|-----|-----------|--------|------|------|---------|
| 601 | 4月4日、5日   | 山口県山口市 | 長徳寺  | 河谷正也 | センター布教師 |
| 602 | 4月11日、12日 | 鳥取県鳥取市 | 昌福寺  | 杉本俊正 |         |
| 603 | 4月18日、19日 | 岡山県真庭市 | 西福寺  | 山田良天 | 教化指導員   |
| 604 | 4月25日、26日 | 島根県浜田市 | 訂心寺  | 木村芳典 | センター布教師 |
| 605 | 5月2日、3日   | 島根県松江市 | 正禅寺  | 吉長裕教 | センター布教師 |
| 606 | 5月9日、10日  | 岡山県新見市 | 大椿寺  | 鷲山晃道 | 教化指導員   |
| 607 | 5月16日、17日 | 山口県周南市 | 光雲寺  | 河村史紀 |         |
| 608 | 5月23日、24日 | 山口県萩市  | 全柳寺  | 山本昌男 | 教化主事    |
| 609 | 5月30日、31日 | 島根県松江市 | 長壽寺  | 菊川清治 |         |
| 610 | 6月6日、7日   | 山口県宇部市 | 常安寺  | 末富将史 | 教化指導員   |
| 611 | 6月13日、14日 | 岡山県高梁市 | 祥雲寺  | 逸見大忍 |         |
| 612 | 6月20日、21日 | 島根県松江市 | 宗泉寺副 | 澤真樹  | 教化指導員   |
| 613 | 6月27日、28日 | 島根県浜田市 | 地久寺副 | 櫛本淳道 |         |
| 614 | 7月4日、5日   | 鳥取県倉吉市 | 正明寺  | 白澤和敬 | センター布教師 |
| 615 | 7月11日、12日 | 岡山県井原市 | 中興寺  | 野口祥善 | センター布教師 |
| 616 | 7月18日、19日 | 広島県世羅町 | 積善寺  | 面壁裕昭 | 教化指導員   |
| 617 | 7月25日、26日 | 鳥取県米子市 | 富楽寺  | 中島真也 | 教化指導員   |
| 618 | 8月1日、2日   | 島根県浜田市 | 報恩寺  | 椿修道  |         |
| 619 | 8月8日、9日   | 広島県庄原市 | 浄光寺  | 古川浄久 |         |
| 620 | 8月15日、16日 | 岡山県新見市 | 西来寺  | 松永俊彦 | 教化指導員   |
| 621 | 8月22日、23日 | 広島県福山市 | 昌源寺  | 村田昭元 |         |
| 622 | 8月29日、30日 | 鳥取県三朝町 | 徳林寺  | 前田宗歩 | 教化指導員   |
| 623 | 9月5日、6日   | 島根県松江市 | 宗淵寺副 | 板倉省吾 | 教化主事    |
| 624 | 9月12日、13日 | 広島県府中市 | 潮音寺副 | 久我孝龍 | 教化指導員   |
| 625 | 9月19日、20日 | 鳥取県南部町 | 雲光寺副 | 瀬田啓道 |         |
| 626 | 9月26日、27日 | 島根県安来市 | 長見寺  | 藤島義信 |         |

※上記一覧の予定は変更する場合がありますのでご了承下さい。

※4月11、12日放送の際、昌福寺様の所在地を誤って「岩美町」と流してしまいましたが正しくは「鳥取市」です。お詫び申し上げますとともに、訂正いたします。

| ラジオ局     | 地域          | 周波数     | 曜日  | 放送時間      | 放送日のご案内<br>「今日のこころ 私のこころ」 | 曹洞宗ラジオ法話放送 |
|----------|-------------|---------|-----|-----------|---------------------------|------------|
| RCC (広島) | 広島市         | 1350kHz | 土曜日 | 6:25~6:30 |                           |            |
|          | 福山市・三原市・府中市 | 1530kHz |     |           |                           |            |
|          | 三次市・庄原市・東城町 | 1458kHz |     |           |                           |            |
| KRY (山口) | 山口市         | 1458kHz | 土曜日 | 5:30~5:35 |                           |            |
|          | 萩市          | 1485kHz |     |           |                           |            |
|          | 下関市・岩国市     | 918kHz  |     |           |                           |            |
|          | 周南市・須佐町     | 765kHz  |     |           |                           |            |
| RSK (岡山) | 岡山県         | 1494kHz | 日曜日 | 6:10~6:15 |                           |            |
| BSS (山陰) | 鳥取市・出雲市・益田市 | 1431kHz | 日曜日 | 6:45~6:50 |                           |            |
|          | 倉吉市・江津市・浜田市 | 1557kHz |     |           |                           |            |
|          | 米子市・松江市     | 900kHz  |     |           |                           |            |
|          | 境港市・安来市     |         |     |           |                           |            |
|          | 大田市         |         |     |           |                           |            |

曹洞宗ラジオ放送「今日のこころ 私のこころ」

### ラジオ法話集 2019年度版

《平成31年4月～令和2年3月》52話収録



一冊1,000円(送料込み)で頒布いたします。  
曹洞宗中国管区教化センターまでお申し込みください。

# お知らせ

## 教化指導員研修会

※新型コロナウイルス感染症の影響により当初の6月開催を延期としました。新たな開催日時は未定です。決まり次第お知らせ致します。

■お問い合わせ先 教化センター

## センター布教協議会・講習会

- 日時 令和2年9月7日(月)正午受付  
13時開講～8日(火)正午まで
- 会場 広島市 アークホテル広島駅南
- 講師 神奈川県 東泉寺住職  
特派布教師 布教師養成所研修員課程講師  
**関水 俊道 老師**
- 参加費 14,000円
- 対象 布教師・宗門僧侶
- 申込先 各宗務所
- お問い合わせ先 教化センター

## 中国管区内センター布教師並びに宗務所布教師のご紹介

(敬称略)

| 宗務所 | 役職      | 寺院名  | 氏名    | 郵便番号     | 住所              |
|-----|---------|------|-------|----------|-----------------|
| 岡山  | センター布教師 | 中興寺  | 野口 祥善 | 714-1415 | 井原市美星町星田7171    |
|     | 宗務所布教師  | 正眼寺  | 土本 公祥 | 710-1203 | 総社市新本5777       |
|     |         | 長安寺副 | 久保 泰道 | 708-0045 | 津山市西寺町52        |
| 広島  | センター布教師 | 萬福寺  | 高橋 道英 | 727-0003 | 庄原市是松町227       |
|     | 宗務所布教師  | 鳳林寺副 | 原田 良浩 | 729-3307 | 世羅郡世羅町伊尾597     |
|     |         | 寶持寺  | 山下 崇晴 | 737-2213 | 江田島市大柿町大原3413-1 |
| 山口  | センター布教師 | 長徳寺  | 河谷 正也 | 754-1101 | 山口市秋穂東7052      |
|     | 宗務所布教師  | 龍福寺  | 林 達哉  | 753-0093 | 山口市大殿大路119      |
|     |         | 真福寺副 | 大野 泰生 | 746-0062 | 周南市福川中市町6-27    |
|     |         | 華厳寺  | 磯部 誠司 | 746-0012 | 周南市政所1-16-16    |
|     |         | 周鷹寺  | 斎藤 周三 | 759-3611 | 萩市大井3243        |
|     |         | 直指院  | 田村 光雄 | 742-1107 | 熊毛郡平生町曾根2330    |
|     |         | 善福寺  | 清成 泰典 | 751-0833 | 下関市武久町1-47-14   |
| 鳥取  | センター布教師 | 正明寺  | 白澤 和敬 | 682-0605 | 倉吉市福富312        |
|     | 宗務所布教師  | 天徳寺  | 宮川 敬之 | 680-0007 | 鳥取市湯所町1-709     |
|     |         | 梅翁寺  | 倉瀧 英信 | 683-0006 | 米子市車尾5-7-50     |
|     |         | 長寿寺副 | 古川 和彦 | 683-0337 | 西伯郡南部町落合516     |
|     |         | 同慶寺副 | 大西 基道 | 683-0011 | 米子市福市1241       |
| 島根1 | センター布教師 | 訂心寺  | 木村 芳典 | 697-0063 | 浜田市長浜町1588      |
|     | 宗務所布教師  | 慈雲寺  | 引田 佳山 | 694-0064 | 大田市大田町大田口678    |
|     |         | 長久寺  | 樋谷 雅豊 | 695-0023 | 江津市二宮町神村1725-8  |
|     |         | 妙義寺  | 永見 宏樹 | 698-0017 | 益田市七尾町1-40      |
|     |         | 西光寺  | 萩野 泰道 | 699-5616 | 鹿足郡津和野町部栄411    |
|     |         | 西光寺副 | 萩野 慈隆 | 699-5616 | 鹿足郡津和野町部栄411    |
| 島根2 | センター布教師 | 正禅寺  | 吉長 裕教 | 690-2105 | 松江市八雲町平原742-1   |
|     | 宗務所布教師  | 松源寺  | 佐瀬 宏洋 | 692-0011 | 安来市安来町1446      |
|     |         | 永昌寺  | 門脇 直哉 | 692-0212 | 安来市伯太町西母里78     |
|     |         | 總光寺  | 千葉 哲之 | 699-1701 | 仁多郡奥出雲町亀嵩2236   |
|     |         | 玉雲寺副 | 曾根 慎吾 | 699-1434 | 仁多郡奥出雲町佐白404    |





恒規法要等の法話のご依頼などございましたら各県宗務所もしくは教化センターまでお問い合わせください。

## 令和2年度事業計画（案）

（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

| 月              | 日           | 行 事                                 | 備 考                             |
|----------------|-------------|-------------------------------------|---------------------------------|
| 4              | 延 期         | 全国教化センター前期連絡協議会                     | 宗務庁                             |
|                | 20(月)       | 前期教化活動推進委員会                         | 広島市 ニューヒロデン                     |
| 5              | 上旬          | 中国管区教化センター報第36号発刊                   |                                 |
|                | 14(木)       | 第1回教化資料等企画制作委員会                     |                                 |
|                | 延 期         | Let's try ZEN<br>～坐禅をしてみませんか！～（第1回） | 広島市 聖光寺                         |
| 6              | 延 期         | センター布教師協議会                          | 広島市                             |
|                | 延 期         | 教化指導員研修会                            | 松江市 玉造温泉 皆美                     |
|                | 15(月)       | 婦人会中国管区役員会 (婦人会)                    | 岡山県宗務所                          |
| 7              | 6(月)～7(火)   | 管区役職員人権啓発研修会<br>人権啓発に関する協議会 (管区)    | 岡山県宗務所管内                        |
| 8              |             |                                     |                                 |
| 9              | 7(月)～8(火)   | センター布教協議会・講習会<br>布教師検定会（8日午後）       | 広島市 アークホテル広島駅南                  |
|                | 未 定         | 第2回教化資料等企画制作委員会                     | 広島市                             |
| 10             | 5(月)        | Let's try ZEN<br>～坐禅をしてみませんか！～（第2回） | 山口市 禅昌寺                         |
|                | 14(水)       | 後期教化活動推進委員会                         | 広島市 ニューヒロデン                     |
|                | 27(火)～28(水) | 婦人会中国管区研修会 (婦人会)                    | 倉敷市 WASHU BLUE RESORT<br>風籠 かさご |
|                | 未 定         | 全国教化センター後期連絡協議会 (主监会)               | 宗務庁                             |
| 11             | 9(月)        | 禅をさく会                               | 高梁市総合文化会館                       |
| 12             |             |                                     |                                 |
| 1              | 未 定         |                                     |                                 |
| 2              | 未 定         | 布教委員長会議 (管区)                        | 鳥取県宗務所管内                        |
|                | 未 定         | 教化活動企画委員会                           | 広島市                             |
|                | 未 定         | 第3回教化資料等企画制作委員会                     | 広島市                             |
| 3              |             |                                     |                                 |
| 4月～翌年3月(毎週土・日) |             | ラジオ放送「今日のこころ 私のこころ」                 | RCC中国放送（キー局）                    |
| 毎月2回           |             | NHK文化講座「やさしい写経入門」                   | 鳥取県米子市                          |
| 毎月1回           |             | NHK文化講座「坐禅に学ぶ」                      | 鳥取県米子市                          |
| 毎月1回           |             | NHK文化講座「精進料理に親しむ」                   | 鳥取県米子市                          |
| 11月24日(火)      |             | 中国曹洞宗青年会広島大会 (青年会)                  | 広島市内                            |

## センター役職員

|   |     |       |       |                            |               |
|---|-----|-------|-------|----------------------------|---------------|
|  | 統 監 | 長尾 武士 | 国 分 寺 | 〒682-0942 鳥取県倉吉市国府430      | ☎0858-28-4183 |
|  | 主 監 | 和田 光史 | 傳 燈 寺 | 〒689-4233 鳥取県西伯郡伯耆町二部1519  | ☎0859-62-7189 |
|  | 賛 事 | 藤島 義信 | 長 見 寺 | 〒692-0206 島根県安来市伯太町安田960   | ☎0854-37-0515 |
|  | 賛 事 | 井上 紀生 | 常 福 寺 | 〒689-5224 鳥取県日野郡日南町多里471-1 | ☎0859-84-0310 |

## 編集後記

管区内御寺院様には、平素より格別なるご高配を賜り誠に有難う御座います。

事業を遂行させていただく中で、主幹事業の一つでありますラジオ放送がごいます。寄稿いただく法話は、視点、状況、人との関わり等実にその光景が頭に浮かび、心が温まるお話であり、同時に私共も大変勉強になり感動も覚えます。曹洞宗檀信徒のみならず、多くの方々に聴いて頂き有り難く思います。

また本年度は、新しい事業として、「レッツ・トライ・禅」と称し、管区内御寺院をお借りし、坐禅の実践を中心とした講演、茶話会を盛り込んだ企画を実施致します。

寺院を取り巻く環境が年々変化し、課題が山積している中で、今こそ布教化の観点を再確認、向上していく上では発信力が必要となつていくと感じる次第です。本年度も何かとご協力、ご支援の程宜しく申し上げます。

主監 和田光史 拝